

ドイツの岩場

ドイツの岩場とらとポケットホールが浮かんでくる。世界で最も有名な課題、Action direct がこの国にある。ポケットの連続するこのルートは、交通事故で死んでしまったボレグ・ギョリヒが1991年に初登した世界最初の9a(5.14d)である。13年たった2004年でも、この地の最難ルートとしてこの1番上の行に燦然と輝いている。小山田大にして「この9aは他の9aとは次元が違う」と言わしめた難ルートで、未だ数名の再登者しかでていない。彼は2005年にこのルートを遂に足元にした7人目のクライマーとなった。

ヨーロッパはどの国もクライミングは大変盛んであり、ドイツも例外ではない。他国と大きく異なる点は伝統的にチッピングをしない国である。とらことである。非常に癖のあるルート、1箇所だけか悪いルート、1本指ポケット、1本目のボレトが遠いなど、かな！手厳しいルートが多い。どのルートにもクライマーが課題と格闘して、1本1本作られていったと、ドライブ感が感じられる。それがフランスやスペインなどで登りなれていると違和感を感じるかもしれない。しかしこれがドイツの魅力なのである。グレードや本数など、数字的な結果は得られないかもしれないが、登りきったときの満足感や充実感、そしてクライマーとしての底力をつけるにはもってこいの国である。

代表的な岩場はフランケンユーラ。2004年現在700個の岩場に1万本ほどのルートが拓かれており、1つのエリアとしての本数はおそらく世界最大であろう。前記したAction direct もここにある。

ユーラ以外では南部のULMとトイ町の西南一体に広がるエリアが良いらしい。Blautalというエリアには巨大なレークがあり、写真で見ると面白そうだが、ボレグも大変盛んである。2003年に小山田大が訪れ、数多くのハードボルダラーを登っている。

このあたりはビデオProlougeもしくはDVD Action directe を見ていただきたい。

ドイツとらと夏のエリア、とい印象が強い。緯度的に夏に登れるエリアであるが、シーズンによっては雨が多、気候が悪い。地元のクライマーの情報では10-11月がベストシーズンのようだ。この時期は天気も安定し、岩も乾燥しているので、非常に登るのは適しているようだ。逆に春は雨が多、曇り出しのシーズンのようなので避けたいほうがいい。

車

ヨーロッパの中では最も安全運転をする国がドイツ。特に街中などではどの車も制限速度を守っている。しかし制限速度のないアウトバーン(高速道路)はハンパじゃない。180キロで走ってても、後ろからピタリ付いて、恐ろしいスピードで抜いていく。それがきれいな女性だったりするからさらに驚く。

宿泊

特徴があるのがゲストホフと呼ばれる1階が飲み屋とレストランになっている簡易ホテル。値段が安い上に、質素ではあるがきれいで、細かい心配りはドイツならではのものだ。長期でないなら是非お勧めである。

キャンプ場も各地に完備されており、予算に合わせて選ぶことができる。

D1 ドイツ (フランケンユース)

フランケンユースの岩場は、ドイツ南部のニュルンベルク近郊の深い森の中にある。このエリアはどこか岩の量が多い、どれも小さな岩峰になっており、そのような岩が無数にそこらじゅうにニューキユキと立っている。あたりは深い森に囲まれているのだが、この森の中にも岩が無数にそびえている。場所も山や海といふ自然の環境にあるのではなく、ユース地方といふ田舎村の中にある。半径 50 キロくらいの広い範囲に岩場は点在しており、これらの岩場から自分の好みに合わせて登りに行くと言う感じである。

岩場は700箇所以上におよび、大きなものから小さなものまで千差万別。道路わきのものから、森の奥まで場所もまちまちである。

その為、車がないと岩場や買い出しに行くことがきびしい。車は必須である。またこの地図だけで岩場を見つけるのは最初はかならず苦労するだろう。本屋で1/5万の地図が売っているので買って置き、事前に行きたいエリアを地図上で調べておく方が良い。(コンパスといふ会社の地図が見やすい)

ユースはヨーロッパでは古くから夏のエリアとして世界中からクライマーが集まっていた。もちろん今でも多くのクライマーが登りに来ているが、不安定な天候やポケットホールド、ランナウトは嫌気がさしてしまうものも少なくない。逆にここが気に入れば何度も訪れるクライマーもいる。小山田大なども大変に好きな岩場のようだ。好みは分かれるが、かなり大人好みのエリアであることは間違いなし。

また長期で行くのであれば、あらかじめ1本指ポケットのトレーニングを積んでいく良い。何のトレーニングもしないで行くと、指をバキってしまったり実力が十分発揮できないからである。

トポは1年か2年ごとに新しいものが発行されており、なかなか手のこったものになっている。岩場は車を降りてすぐのものから、かなり歩く所まであり、なかなか見つからない所もある。森の中の岩場は目前にして敗退することもある。(深い森に囲まれている為、すぐそばまで来ているのに岩場が見えない。) そのためある程度の岩場を見つける勘も必要。

岩質

石灰岩。枝雑な形状をしたポケットホールドが多い。外見は汚く湿っぽい。

ルート

高さは、高い所で40m、低い所では5m。多くの岩から好きな長さを選べる。

ルートは、スラブから前傾壁、ルーフなどさまざまなパターンがある。

しかし高難度のルートの多くは、前傾壁やルーフが多い。喩えるなら日本の二子山の広場をもう少し前傾させてあと2~3m高く感じ、そして持久力よりは瞬発力を必要とするボルダリング的なルートが多いので指への負担も大きい。

プロテクションはボルトで、その多くが大きなリング状の輪になっている為、途中で敗退することもできる。(リングにセルフを取り、そのリングにロープを通して降りる。)また終了点もこのボルトが1本もしくは、2本打ってあるだけである。

そして1本目のボルトがずさまじいので十分注意が必要である。基本的に付いているグレードにあわせて、不要なところはボルトがよい。(例えば5.12であれば5.10くらいの部分では絶対落ちない前提で打ってある)ルートによってコア部の上、15mはボルトなし、なんていうものもある。(もちろん落ちたらグラウンド)トポと現地でもボルトの位置を良く見て、無理をせずに取り付いて欲しい。

宿泊

1990年の互に訪れた時は、Stihl aiftnansen といふ小さな村の日本人クライマーに人気のあったクローダーハウスに1泊8マルクで泊めさせてもらったが、1994年からは地元クライマーのスクールなどの団体客のみしか泊まれない。

キャンプ場はいくつかあるが、現在日本人にもっとも人気のあるのが、エーケルやマグネットなどのルートのあるエリアに近いUntertrubachのキャンプ場である。(1日4人6マルク1995年)ここ毎年夏には日本人のテント村ができる。オーナーはマリアと言ふ老婆でなかなか日本人好きである。しかしキャンプ場としても正式なものではなく家の庭を貸しているにすぎない。その為マリア家は正式なキャンプ場の許可を政府から取りたい為、利用者から署名を募っている。そんな感じの所なので、シャワーはあるが水しか出ない。夏といっても外人は平気で水を浴びているが、日本人には非常に辛い。その為私たちはGoBweinsteinにある温水プールのシャワーを風呂代わりにしていた。カネ(回数券、30回で1人約1.5マルク)を買うと便利。キャンプ場はこの辺にもPottensteinやEbermannstadtなどにあり、設備はととのっているが高らしい。

短期間で来る人はガストホッフと呼ばれるホテル(1階がレストランで2階より上が宿泊施設)に泊るとよいだろう。このガストホッフはそこらじゅうにある中にはキッチン付きの所もあるが数はすくないようだ。私のお勧めはObertrubachd1(エルドラドのエリアに一番近い)の町のガストホッフである。

家族連れや、少し予算に余裕があるのであれば以下のガストホッフが勧め。食パン岩まで10分とかわからず便利で快適な宿である。キッチン付きのアパートもあり予約も可能。

シーズン

5月 - 11月。夏のエリアとして有名である。1995年は雨が6月と8月後半連続して降った。1990年7、8月と2004年8月はほとんどなし。すこしの雨なら登れる所はあるが、連続して降るとしみ出しや結露がある。また1日中日陰や日向のエリアがあるので、その日の天候にあわせてエリアを選んだり、午前と午後のエリアを変えてもいい。このシーズンは夜の10時くらいまで明るいので、かなり長い時間クライミングができる。しかし寒暖の差が大きいので体調には十分注意したほうがいい。

ローカルの話だと10月がベストシーズン。ただしこの時期は他のヨーロッパのエリアもベストなので行く人は少ないかもしれない。

ショッピング

Nurnberg はドイツでも有数の大きな町。

たまたまクライミングに関する買い物はNurnberg の北20キロほどにあるErlangen がいい。鉄道の駅前にRot punkt というアウトテショップがある。またその先、教会の向かいの目抜き通りにある本屋の3階にはドイツ中のクライミング本が置いてあるので、情報収集にはもってこいだ。買い物をするのに手ごろな町である。食料品などはObertrubach (トボもあるなど各町に小さなスーパーがある。またForchheim (フォルヒハイム)には大型スーパーやアウトテショップがある。街の雑貨屋ではキャンピングガスボンベなどが手に入る。

アプローチ

さまざまな方法があるがここではフランクフルトからのアプローチを紹介する。まずフランクフルトでレンタカーを借りてニュールンベルクを目指して東に進む(E-45もしくは3号)。そしてHochstadt の町でアウトバーンを降り、一般道470号をForchheim 方面へ、約10kmでフォルヒハイムに着く(フランクフルトからフォルヒハイム約3時間)。ニュールンベルクまで行ってから3号を北上してフォルヒハイムに来るのが分かりやすいが1時間くらいは回りである。フォルヒハイムからマリアのキャンプ場までは、まず470号をそのままEbermannstadt 方面へ向かい、途中、Pretzfeld 方面へ左折する(少し分かりづらい)。そしてEgloffstien へ向かい、その後Obertrubach をめざす(この道はかなりの田舎道)。その途中にUntertrubach があり、そこにキャンプ場はある。(フォルヒハイムから約40分)

レスト

レストの日にはプールで泳いだり、買い出しに行ったり自由にすごすのがいい。ハンベルクやローテンブルクの観光地へかけてもいいだろう。またニュールンベルクにはアウトテショップや人工壁もある(サウナ付き)。それと別に食にはまるのもいい。なんといってもチーズクーヘン、ソーセイジなどやめられない。ガストホッフへ行ってデュンケル(黒ビール)やシュニッツカ(カソリン)などにトライしてもいい(場所によって味がちがうのでいろいろ試してみるのがある)。しかし、もっとおもしろいレスト方法は化石採集である。Ebermannstadt の山の斜面の碎石場跡(470号からもよく見える)へ行くと、アンモナイトなどの化石が山のように取れる。私は人の顔ほどのアンモナイトを採取した(ノミハンマーそして根気が必要)。クライミングより面白いという者もいた。

その他

ドイツではごみを分別して指定された日時は指定された場所に出す。ピロ色別しなくてはならず日本よりきびしい。どうしてもゴミがでたら、そこらのパーキング脇のゴミ箱にすてるのがいい(本当はやってはいけない)。またドイツ人の車の運転マナーはフランス人などに比べればかなりいい。アウトバーンや街を過ぎた所はものすごく飛ばすが、町中に入ったとたん必ず制限速度で走る。

お薦めエリア

音、岩雪やCJなどで紹介されているが、その中の幾つかはすでに苔むして死んでいる。最新の情報は地元クライマーが先に来てくれる日本人に聞くのがいい。トボのお進めマークだけで判断しないほうがいい。とんでもないスラブに連れていかれるかもしれない。変なエリアやアプローチで迷わないように、キャンプ場やクライマーから情報収集をすることを進める。

Grune Holle

すべて10m以内の前傾壁。スパイダーマン(10-)などがある。左壁には内容の濃い5、11クラスが何本もある。1日中日陰。

Eldorado

すべて7-8mの超前傾壁。エーケル(9+)・ナイトメア(10)、ストーンラブ(10+)などがある。非常にポルダ-的。雨でもOK。午後から日陰。

Schlo Bbergwand

私たちはヴィヴァリアンと呼んでいた(ゲコ臭い)。垂壁からレ-フまで。中級者から上級者まで楽しみ、比較的グレードは甘目。少々の雨ならOK。1日中日向。

WaiBanstein

アプローチでやさしいルートから5.12くらいまで行遍なくそろっている。ツアーの最初に行けるに適している。ローカルクライマーも大勢いて大人気エリアである。日本人の間でも食パン岩と呼ばれて親しまれている。右側は15mほどの薄かぶり。5.11-5.12が20本ほど。雨でもOK。左には5.7-5.10が30本くらい並び、ポケットは少ない持久系のルートもある。1日中日向。

Stadeltenne

20mほどの垂壁から薄かぶり。この3本の9はお進め。ねちっこいクライミングが好きな初心者から中級者向き。少々の雨ならOK。1日中日陰。

Marientaler Wand

私たちはオショー対岸と呼んでいた(対岸にはOSHO(10)がある)。垂壁から前傾壁まであり初心者から上級者向き。2段目の右壁は初心者向き2段に別れている。日陰。

ポッテンシュタインキャンプ場周辺

ヘラクレス(9)などのある大レ-フ地帯は上級者向き。午前中のみ日陰。道路をはさんで右側のバーンフォーユー(10+)のあるエリアも10m以内だが楽しめる。川をはさんで対岸は20mほどの垂壁で初心者から上級者向き。1日中日陰。余談だが、このキャンプ場のシャワーはこっそり使うことができる。

ゴシュバインシュタイン町周辺

5.7くらいから5.12まで。岩は10以上ありルート数も100以上、いつも賑わっている。好ルートが多くトポの星も多いが、5.12台はとてつもなくランナウトしている(25mにポレット4本)。アプローチが少々分がずらい。

Holzgaver Wand

ハンベルグは近いのでハンベルグの岩場と呼んでいた。20mほどの垂壁からレ-フまで。ニキータ(10/10)などがある。初心者から上級者向き。メインウォールは日陰。

95年夏 木村伸介

04年夏 内藤直也

D2 Oberammergau

Oberammergau はドイツ南部、オーストリアとの国境近くのGarmisch-partenkirchen という大きな町の北、10 キロメートル位置する小さな村である。岩場は村の西側に花崗岩の岩肌が点在しており、それらにルートが拓かれている。

地元のクライマーに勧められて行ったのだが、個人的にはハマった、と言う感じで面白くはなかった。

雰囲気は奥多摩の小さなエリア、という感じであり、わざわざ行くところではない、というのが正直な感想である。

岩質

典型的な石灰岩

エリア

エリアはトポ上で7箇所に分かれる。

Falkenwand, Frauenwasserl, Obelix, Friedhofswand の4 エリアがお勧めと聞いている。

Friedhofswand は5.12-5.13 が20本、並んでおり北面に位置するので夏の時期は良いだろうと期待していた。しかし数日の好天の後にもかかわらず染み出しで岩はびしょり、とても登れる状態ではなかった。

後日、トポにドイツ語で染み出しが多いので注意、と書いてあることが判明した。

Frauenwasserl は南面で日向、道路わきでベンチなどもあり初心者にはお勧め。5.9以下の易しめの長いルートが20本強ある。

Obelix はFrauenwasserl の右上のエリア、南面だが林の中なので夏でも登れる。ルートは10本でまさに奥多摩。

それ以外のエリアは行ってないので不明。

アプローチ

Garmisch-partenkirchen 方面からのアプローチを紹介する。Oberammergau の村に入る1キロほど手前に左に入る道がある。これに入り再び2キロほど進むと右に入る道があるのでこれに入る。まもなくFrauenwasserl の岩場が左手に現れる。

さらに進むと教会があり、この駐車場に車を止め、上に見える岩の右側にFriedhofswand はある。

教会をさらに進むと国道をくぐり、Oberammergau の村に入ることができる。

Oberammergau の村から行くことも出来るが、国道をくぐる道が分かりづらい。

トポ

Sport klettern allgäu oberland tirol に掲載